■『いきいき・やりがい作文集』■

# 建設産業に働く若者からのメッセージ

## ―建設現場を支える専門工事業者のいきいきやりがい作文―

保坂　益男*

社団法人日本機械土工協会は，建設における土工工事の機械化施工を担当している専門工事業者が組織した団体です。会員数は全国で約300社であり，当協会は業界の近代化を図るため昭和61年から現在まで5次にわたって業種の構造改善事業を実施してきました。

その中で会員企業の従業員の雇用改善の一環として平成4年より同従業員を対象にした「いきいき・やりがい作文コンクール」を，独立行政法人雇用・能力開発機構の「建設業に働く若者からのメッセージ」の募集に協力するとともに同機構から助成を受けながら実施しております。

今年は14回を数え，今まで応募頂いた作品は延べ1,567編になり，毎年1冊の作文集として会員事業所を始め関係機関等に配付してきました。以下に掲載されます3編は，昨年平成16年当協会の優秀作となった作品です。

# 辛さが自分の成長につながった

向井建設株式会社　熊谷　忠信

三宅島の経験では仕事量の多さのおかげで肉体的には辛いが，反面良い経験，勉強になっていることは確かです。沢山辛さを味わっていると思いますが，誰よりも自分の能力を高めてもらっている現場です。

今，携わっている当現場は，東京都から約180 km，半径10 kmの太平洋上に浮かぶ島，「三宅島」です。今でもなお火山活動があり，風向きによっては，硫黄の臭いがたちこめたり，大雨が降ると三宅島山頂の土砂が土石流となって流れ出します。その土石流災害を防止するための砂防ダムを構築する仕事をしています。

入社3年目の私の仕事は，測量，工事写真撮影，施工管理業務です。着工当初は，ひたすら急な山の斜面を，背中に測量杭を背負い，手にはスラント，釘，ハンマー等を持ち，がむしゃらに砂防ダム本体掘削のための丁張りを架ける日々でした。そんな作業をしているにもかかわらず，時には重機オペレータから，せっかく架けた丁張りをガリッと崩してしまい，「熊ちゃ～ん，やっちゃた～」の電話が鳴ったりもしました。しかし掘削終了後には，自分の架けた丁張りから本体工事が始まったんだなぁ～としみじみ感じました。

次のメイン工程は，本体基礎杭打設です。当社の施工範囲ではなかったが，約1ヵ月半の間，けたたましい騒音，振動に悩まされながら，私たちは本体部下流川の垂直壁施工を行っていました。振動，騒音に耐え，いよいよ本体構築に突入します。

本体構築に入ってからは，測量機材を赤鉛筆や墨壺に持ち替えて測量をしています。夕方帰ると洗面所へ駆込み，なかなか落ちない手についた墨を爪の間から指の股まできれいに洗う毎日です。

施工の進捗状況に応じて，当然のことながら，ダムの堤体高も上がり，出来上がってくる躯体を見ていると，この仕事は自分の天職であることを日々再確認することが出来ます。一日の半分は測量・工事写真関係に費やし，残りの半分は現場管理業務です。10年目の先輩と二人で打合せながら重機稼働状況・作業間連絡，調整，番割等の仕事を進めています。

安全管理は自分の不得意分野で，元請の安全マニュアルを見ながら勉強中です。なぜ危険な作業なのかを法令で学び，現場で作業してくれる皆に理論的に説明できるようになりたいと思います。

＊ 社団法人日本機械土工協会事務局長

向井建設株式会社に入社して3年目，今までの現場に比較して，初めて仕事が辛いと思ったのは，いまの「三宅島作業所」です。この現場に従事する人は全員一つの宿舎に集められ，合宿生活のような感じです。同じ現場の作業員の他に三宅島のほかの作業所の作業員が一緒に生活しています。宿舎では，帰宿時間が決められていたり，残業時間の拘束があったりして，その日の内に仕事を終わらせることが出来ないことが多々あります。宿舎内では，各社作業員同士のいざこざや酒の席でのケンカなどが時々あります。職員は仲裁に入ったり作業員の愚痴を聞いたり，現場以外にも多くの仕事があって，精神的にも辛い作業所です。娯楽もなく狭い島に閉じこめられて，ノイローゼになる職員や作業員がいることも納得できます。肉体的に辛いのは，非常に現場施工量，事務所内の仕事量の多さです。施工量の多さ，つまり工程的にきついと言った方が正しいかも知れません。3〜4日間に一度の割合でコンクリート打設は当たり前で，全職員，作業員は夕方クタクタになるまで懸命に働き，宿舎に戻ってからも宿舎での仕事（作業員の愚痴を聞く）があって，そして1日の仕事が終わります。肉体的にも精神的にも結構しんどい現状ですが，今の生活を中学・高校の合宿生活のように考え，いろんな人とのコミュニケーションの取り方，人の考え方等，自分の将来の良い勉強になっていると，プラス思考にしています。必ずどんな現場に行っても人間関係というものはつきまとうものであり，上手く付き合っていかなければいけません。この島の作業所は辛いことの方が多いのですが，前向きに考えれば自分の将来につながる良い場であることに気がついた感じがします。また自分自身も「三宅島の辛さ」に遭遇したから，どんなことにも「逃げ出さない」「負けない」「くじけない」ことが出来るという自信につながると信じています。

向井建設に入社して，この三宅島の経験では仕事量の多さのおかげで3年目ではなかなか任されない仕事をさせてもらっており，きつい経験・体験を通じて自分の人間形成に役立っていると感じます。確かに肉体的には辛いが，反面やりがいといった面では，これもまた非常に良い経験・勉強になっていることは確かです。同期の皆よりも沢山辛さを味わっていると思いますが，だれよりも自分の能力を高めてもらっている現場です。

三宅島の災害復旧に来て，災害を起こさないように，仕事の忙しさに振り回されず，残りわずかな工程になりましたが，安全にかつ良い物をより早く造って，本土に帰っていきたいと思います。

# 施工ロスの低減

山﨑建設株式会社　**長谷川　淳一**

協力業者の人達と話しあうことで専門業者の人達の真剣に取組む姿勢，専門的な知識を吸収することができ，マクロ的に考えて問題解決に取組むことができるようになりました。

私が現在担当している工事は，延長2.2kmの造成を担当する，第二名神高速道路建設工事です。

最重要工種として，重機土工事をいかにうまく処理するかにこの工事の命運がかかっています。日頃より1日当たり生産量の把握，今後の工程を睨みながら施工しています。

中でも土取り場では近隣住民への配慮が大切で，作業時間の制限があり，1日当たり目標土量の確保をどうするかが問題でした。発破工法では，最大3,000 $m^3$以上の土量は見込めないので，いかに当社の段取りがうまく出来るかに目標達成のカギがありました。そこで私は土取り場全体の工程を各協力業者と共に週1回検討し，当社の施工がスムーズに出来るよう取組みました。

しかし，突発的な出来事が度々発生し，作業の中断を余儀なくされてしまいました。工程を組んだ段階では，ロスをあまり考えに入れておらず，それが工程の遅延につながってしまいました。そのロスを挽回し，低減化を図るため，重機の修理待ち等のロスタイムがどれ位発生するのかを掴む事により，1サイクルの充

実を図る事にしました。これにより，施工がよりスムーズになりました。

例えば100t級ブルドーザのリッパーチップ交換の時期を早めに確定する。また，不具合箇所を早めに発見するために現場詰め所でオペレータとのコミュニケーションを図り，機械の状態を把握する。そして，定期的にオイルを抜取り，当社オイル分析室での分析結果を基にして効率よく，かつ，ロスのない機械稼働が出来るよう努めています。

以前の私は，目の前の問題だけを解決するのに必死で，全体を見ながらマクロ的に取組むということができませんでした。

一言でロスの低減といっても，そう簡単にできるものではありません。問題を一つ一つ片づけると同時に，全体を考えて，どうすればより早くそしてコスト削減につながるかを工夫していかなければ達成できません。

この第二名神高速道路工事を工務として担当し，毎日どうすればロスの低減につながるか，いろんな角度から考えるようになり，仲間と話して知恵を出し合ったり，オペレータの人たちの話を聞いたりすることで，機械のことを知るようになり，今まで考えなかった角度から，取組むことで全体が見えるようになってきました。そして，協力業者の人たちと毎週話し合うことで，専門業者の人たちの真剣に取組む姿勢，専門的な知識を吸収することができ，今までの自分からは，限られた方法しか浮かんできませんでしたが，マクロ的に考えて問題解決に取組むことができるようになったと思います。

ロスの低減を図ることができた時に味わった充実感は，私に今までにはなかったやりがいを感じさせてくれました。

毎日，次から次と色々な問題がでてきますが，一つの方法だけで結論を出すのではなく，色々なやり方を考え，その中からベストな方法を選び出すことの重要さを知ったように思います。普段は，ついルーティング的な仕事に気を取られ，流されてしまいがちです。しかし今回は，時間が制限された中でいかに効率アップを図るかが，すぐコストに影響を与えるという状況下に置かれたことが，却って真剣に取組む事につながりました。

今後とも施工ロスの低減に向けて，日夜，考えていきたいと思っています。そして今まで以上の成果を生み出して，自分の自信を高めながら，次は現場責任者として，大型土工事にチャレンジしていきたいと考えています。

# 教科書

水谷建設株式会社　**大関　麻子**

現場で目に見えるもの，耳に聞こえるもの，肌で感じるもの，空，山，動物，土，全てが今の私にとって生きた教科書です。現場へ行くのが楽しみです。

働くなら建設業しかない。地図に載るような大きなモノづくりをしたい。学生の頃からの夢が現実となり，現場へ赴任して1ヵ月半となりました。

土木工事に興味を持ったのは重機の巨大さに驚き感動し，何よりも現場のスケールの大きさに圧倒され，私も仕事に携わりと思ったからです。何もないところからモノが造られていく過程，最後にはカタチとなって残っていくものを私は実感したいと思いました。

空と山と畑が一面に広がる宿舎。朝，目覚めて何よりも先にまず空を見る，これが技術職である私の1日の始まりです。お天気は現場の作業を最も左右する要因であることを最初に覚えました。新入社員である私は何も知りません。何も分かりません。やりがいが何であるのかを考えた事もありません。ただ何も分からないからこそ知るという事，教わるという事を常に思い，一から覚えていくというスタート地点にやっと立つことが出来ました。

現場までの移動時間はオペレータの方々や技術職の先輩方との交流の時間であり，話されること一つ一つが勉強になっています。例えば，同じ重ダンプトラッ

クでも機種によって燃料の使われ方が違うことや，現場の面白さ，前日に気付いた事や今日の段取り，全てが私にとって生きた教科書のようです。分からない言葉も時には出てきます。ですが，私はそのままにするのではなく，積極的に聞くことを心掛けるようにしています。小さな失敗や分からない事を恐れるのではなく，それをばねにして成長していく事が大事なのだという事を学びました。

移動時間だけではありません。現場では更に多くの事を学び，経験し実感しています。1ヵ月間，測量を担当しました。現場は測量で出したトンボや丁張りに基づいて動きます。間違いは許されません。学生時代に学んだ測量は基本中の基本であり，現場では応用力とスピードが必要とされます。先輩に付いて歩き回ることに精一杯で，計算も間違いだらけ，迷惑を掛けてばかりの毎日でした。しかし，何度も何度も親切に教えてくれる先輩や，励まして下さるオペレータの方々に助けられ，私は仕事の意味，働くことの難しさを理解できたと思います。

現在は土質試験を担当しています。ロックフィルダムの中心となるコア材の試験を毎日繰返しています。フライパンを片手に日々の含水比を出し，石をひたすら水洗いし，粒径を分析したり，土いじりの毎日を過ごしています。土は毎日違う性質を見せてくれます。土を手に取り，「今日の土の含水比は何パーセントだ」と分かる先輩がいます。土の医者です。土のスペシャリストです。学校の教科書では学べません。今，私は目標を見つける事が出来ました。土の面白さを先輩に教えて頂き，私も土のスペシャリストになりたいと思っています。

現場で動く重機を見るとドキドキします。毎日変化していく現場が楽しくて仕方がありません。発破の音で崩れる土が伝わる震動がとても興奮します。先輩方，オペレータの方々の話から耳や目が離せません。現場で目に見えるもの，耳に聞こえるもの，肌で感じるもの，空，山，動物，土，全てが今の私にとって生きた教科書です。目が覚めて現場へ行くのが楽しみで仕方がないのです。

もちろん，辛い事もあります。厳しい方もいます。上手くいかない事は上手くいく事よりも多くあります。それでも同じ現場で同じ夢やモノづくりをしたいという考えを持った仲間や先輩，オペレータの方々です。出会いは生涯の財産となり，人間的な成長に繋がっていくのだと思います。

まだまだ分からない事だらけの新入社員の私ですが，夢を持つ事，目標を持つ事を忘れず，仕事を覚えていきたいと思います。最初から仕事が出来るとは思いません。自分の好きな仕事だからこそ，責任を持ち実績を積み，頑張る事が出来るのだと思います。やりがいはそうした毎日を過ごしながら感じる事ができ，夢や目標が大きく膨らむものだと思います。

期待と不安の毎日ですが，今しか出来ない事は悔いの残らないよう全力で打込み，学んでいきたいと思います。個性や能力は後から生かされ，成長していくでしょう。現場のスケールに負けないような夢と目標を持ち，大きなモノづくりの現場で働いていこうと思います。そして，いつか生きた教科書となれるような技術者になります。 JCMA